



紹介者

三宅 孝之

ドリームインキュベータ
取締役社長COO



樺島 弘明

エル・ティー・エス
取締役社長CEO

長女の不登校から学ぶ

おかげさまでエル・ティー・エスは設立20周年を迎えました。コンサル・IT業界の大先輩の言葉「ブランドを創るには30年いや50年はかかるぞ」を大切に、成長／成長支援とは何か？に真剣に向き合ってきました。企業は数年に一度の大変革から日常的な変革を続ける時代となり、成長を支援する機会は拡大し続けています。

ここでは私個人の成長経験を紹介させていただきます。

起業から上場までにも苦難はありましたが、一番に思い出すのは「長女の不登校」。2020年東証一部に市場変更した後、妻の仕事が一層忙しくなり本格的共働き生活をスタート。毎日の家事や保護者会への参加など、戸惑いつつも楽しい時間を過ごす中で、突然長女が不登校に。予想外の事態でしたが、妻や長男(弟)、先生方・カウンセラー、友人・親戚・社員らのサポートを受けながら、心がどこか曇りつつも笑顔を忘れずに一日一日を積み重ねていく。やがて長女はエネルギーを取り戻し、今では元気に高校生活を送っています。

この経験は、父として以上に人・リーダーとして視野が広がる機会となりました。教育・スポーツ・行政にも素晴らしいリーダーがいる。徳の高い方は身近な親戚やご近所にもいる。毎朝の掃除洗濯は“動く禅”であり、最高の一日につながる。自分の健康と家族とのつながりが幸せの土台で、仕事はその上に成り立つ。ビジネスだけでは気付けない、大切なことに出会えました。

企業は収益と同時に社会的価値を生み出すべきものとなり、人的資本の拡大や次世代への貢献が求められています。その議論を支えるのは個人の実体験ですから、家族、ビジネス、地域を大切に、今後は経済同友会活動にも積極的に関わってほしいと思います。

▶▶ 次回リレートーク

高橋 知裕

HEROZ
代表取締役Co-CEO